

受付	代表質問	第 号
	令和 年 月 日	時 分

一般質問＜代表＞発言通告書

令和3年2月8日

長久手市議会議長 殿

会派名 芯政クラブ

長久手市議会議員 岡崎つよし ㊟

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質問事項及び要旨	備考
1	<p>施政方針について</p> <p>(1) 市長の目指すまちづくりはどこまで進んだと考えるか。</p> <p>(2) これまでの10年を踏まえて、「ずっと住みたい」まちの実現に向けてどのような取り組みを考えているか。</p> <p>(3) コロナ禍の長期化に伴い、「あんしん 助けがなかったら生きていけない人は全力で守る」をまさに実践していくことが必要になるが、どのように事業化していくのか。</p> <p>(4) 資源回収奨励金制度は団体の活動費の収入源となっているが、行政改革の一環としてその制度が廃止されると聞いた。団体にとっては補助金に依存せず自らの活動で資金を確保するものであるが、制度廃止後はこれらの団体に対する運営支援をどのように考えているか。</p>	
2	<p>市制施行10周年を迎えるにあたって</p> <p>(1) 市制10周年を契機に、未来に向けた新たな出発点としてさらなる発展を目指し、令和4年を“記念イヤー”として、多くの市民が参画できる“記念事業”を実施しないか。</p> <p>(2) 長久手の未来を担う地元の小、中学生が将来の長久手</p>	

	<p>市のために、自らの体験を通して得たまちづくりに対する想いや意見、要望及び自分の夢を大人たちに伝える場を提供することが重要である。その手段として子どもたちが住民自治の基本である市議会の場を経験し、議会制度のあり方を学ぶことで、政治への関心を高め長久手市政の発展に資することを期待し子ども議会を実施しないか。</p>	
3	<p>多文化共生の取り組みについて</p> <p>日常的に外国人と接する機会が多くなり、街中でも多言語対応の表示を見かけるようになった。本市でも、令和元年度に市内に在住する日本人と外国人住民に対して多文化共生に関するアンケートを行い、それを基に令和2年度に多文化共生推進プランの策定を進めている。</p> <p>(1) 直近5年間における本市の外国人住民数の推移はどのようなか。また、どのような国籍や在留資格の住民が増えているか。</p> <p>(2) 外国人住民の抱えている悩みには、どのようなものがあるか。また、そのような悩みに対して、市や国際交流協会はどのように対応しているのか。</p>	
4	<p>新型コロナウイルス感染症について</p> <p>(1) ワクチン接種のスケジュールはどのようなか。</p> <p>(2) 接種の優先順位と人数はそれぞれ何人か。</p> <p>(3) 薬剤アレルギーや食物アレルギーなどでアナフィラキシーを起こしたことがある市民から不安の声があるがどのように対応するのか。</p> <p>(4) 新型コロナウイルスによる感染予防のため、外出自粛や3密を避ける新しい生活様式で、市民への健康にどのような影響が出ているのか。</p> <p>(5) サロン活動、公民館活動等高齢者の自主グループ活動への影響と今後活動を続けていくための課題はどのようなか。</p> <p>(6) 高齢者の健康維持とフレイル予防対策について、今後の市の取組について伺う。</p>	